

「インドネシア地域看護コーディネーター育成プロジェクト」の総括としての全国地域看護セミナー・ワークショップの開催

インドネシア地域看護コーディネーター育成プロジェクトの3年間の総括として「全国地域看護セミナー・ワークショップ」の開催とプロジェクト終了後の自立発展性について検討するために、2007年12月に森口、神原、博士課程学生坂本の3人でインドネシア南スラウェシ州に出かけた。

セミナー・ワークショップは、帰国研修員達が主体となり南スラウェシ州で展開してきた地域看護を総括し全国に紹介することを目的として、州都マッカサルにある保健省研修センターで3日間開催された。当日は保健省の看護課長、公衆衛生局長（代理）、南スラウェシ州衛生部次長、ハサヌディン大学医学部看護学科長をはじめ、全国の7国立大学の看護教員、州内の23県から衛生部長15人、地域看護コーディネーター22人、モデル保健所コーディネーター19人とモデル県に派遣されているJOCVの看護隊員4名も参加した。

第1日目のセミナーはハサヌディン大学学生による歓迎の民族舞踊で開会し、保健省の看護課長と公衆衛生局長、州衛生部次長、ハサヌディン大学看護学科長の講演が行われた。その後森口が日本で地域看護リーダーを育成し帰国後のフォローアップしてきた立場で、「南スラウェシ州における地域看護リーダー育成による地域看護の展開」について講演し、帰国研修員17名の地域看護リーダーとしての役割が重要であったことを述べた。2日目のワークショップでは、帰国研修員達が、大学、州衛生部、県衛生部のそれぞれの立場で果たしてきた役割について説明した。また本ワークショップの参加型によるメインイベントとして、帰国研修員が育成した23県の地域看護コーディネーターとモデル保健所のコーディネーターによるポスターによる活動報告があり活発な質疑応答が行われた。本学の教員達も急遽兵庫県立大学での研修紹介のポスターを作成して参加し、他州の大学の教員達から多くの質問や要望を受けた。3日目は、州内の5つのリージョナル・グループ毎に帰国研修員がファシリテーターとして今後の活動計画を検討した。また大学教員グループは、どのように南スラウェシモデルを他州で波及できるかについて討議した。

このように帰国研修員達が努力してきた成果を全国に発信でき、保健省の看護課長や他州の大学教員達から高く評価されたことは、帰国研修員の自信となり、大学、州衛生部、県衛生部など所属が異なる帰国研修員が協働したことの重要性を確認する機会となった。

プロジェクト終了後の自立発展性についての帰国研修員との会議では、プロジェクト終了後は、自分達で継続していきたいとの希望が出され、「Healthy Indonesia 2010」の最終年度の2010年を目標に、地域看護推進プロジェクトを実施することになり8項目の目標が設定された。今後エンパワーされた帰国研修員達とモデル県に派遣されているJOCV隊員により南スラウェシ州の地域看護がさらに発展することを願って帰国の途についた。

